

史料目録 第86集

信濃国松代真田家文書目録
(その7)

平成20年3月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
調査収集部

史料目録 第86集

信濃国松代真田家文書
(その7)

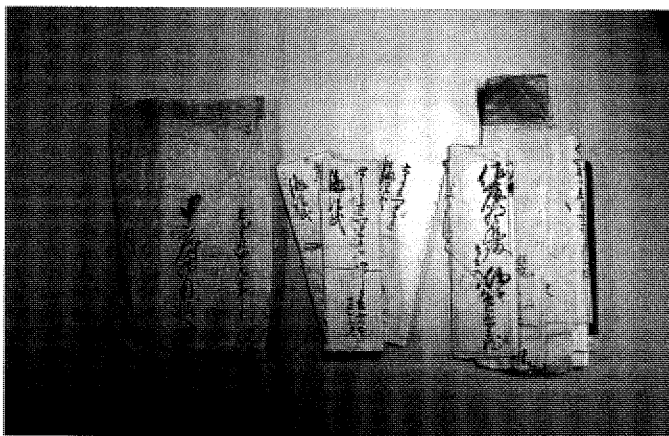


写真1 甲府御用状入（甲府応援人数御賄入料送金用状関係書類一括）
慶応4年（こ126）

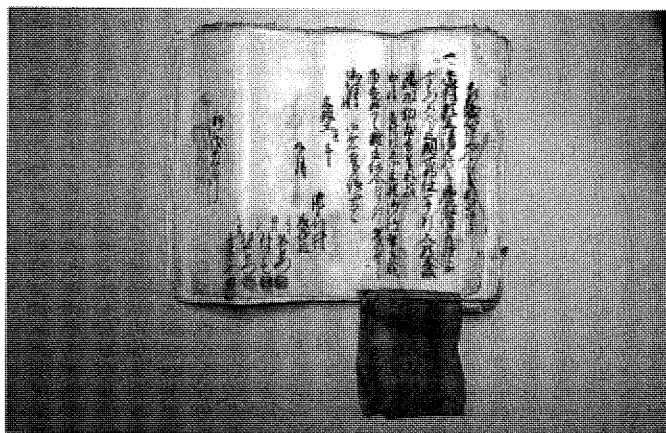


写真2（頭立役相続・新判・名替願書綴）文政12年（こ148）



写真3 小市村馬之丞親類総代喜平治他四名申上書（小市村惣助
御吟味の処出奔居所不明の儀訴えにつき）
天保3年（こ406）

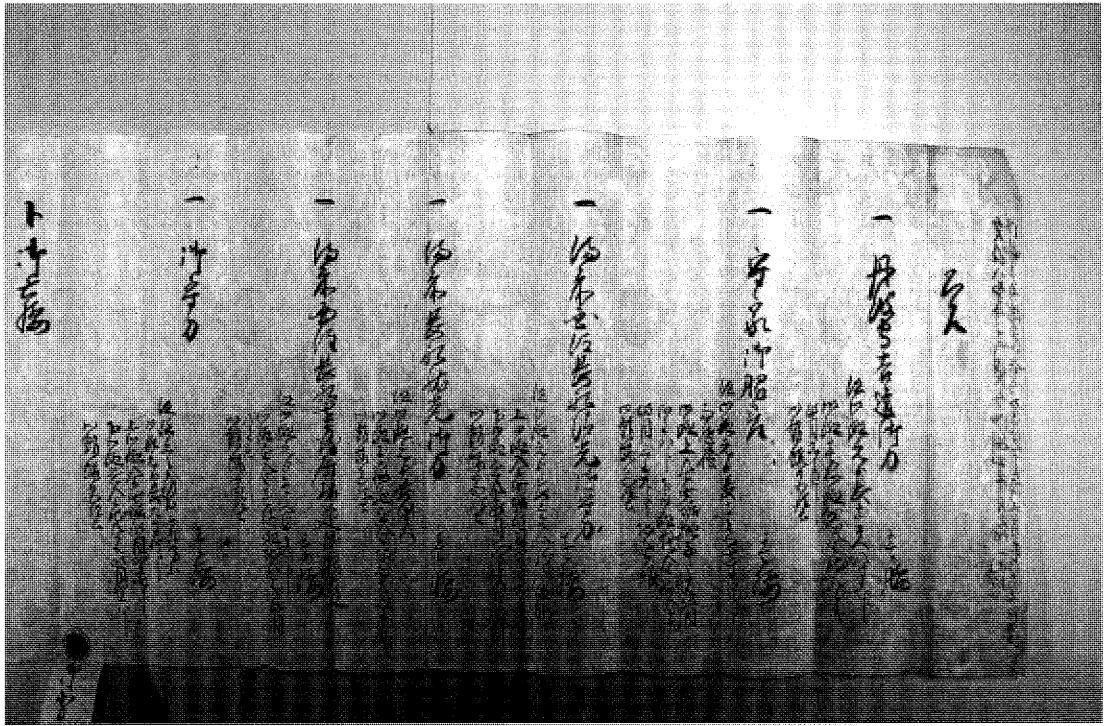


写真4 御研師山上久作覚書（御研師御用のため刃剣預置につき）文政8年（こ221）

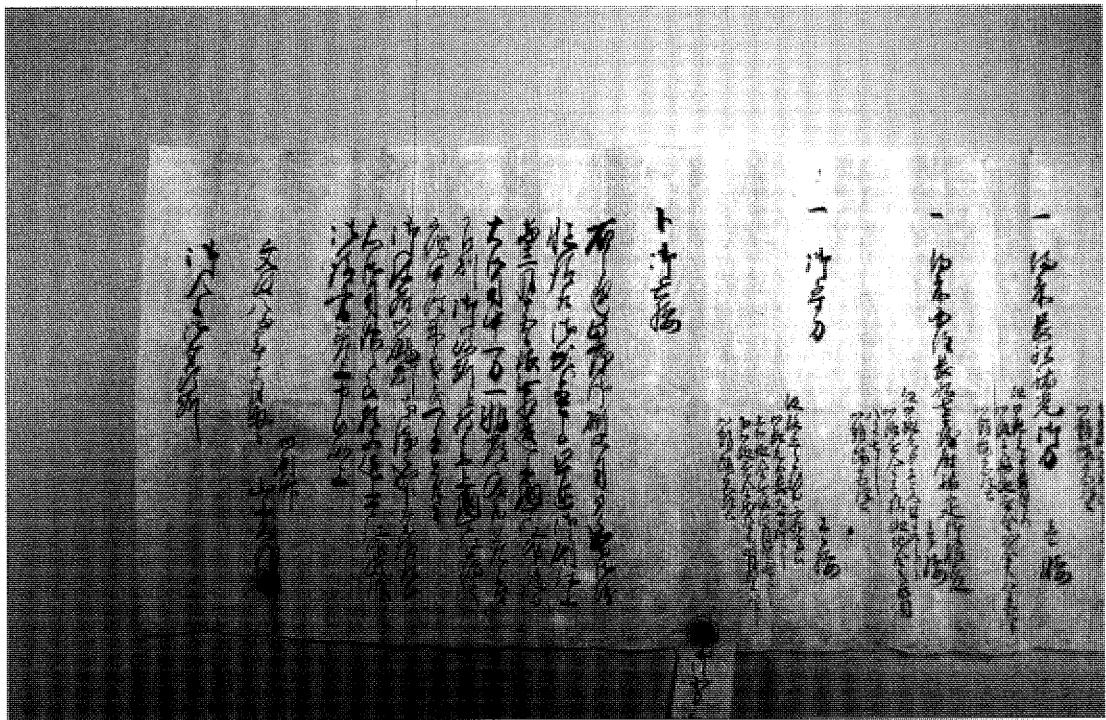


写真5 同上（後半部分）

凡 例

- 1 本目録は、『史料目録』第86集として「信濃国松代真田家文書（その7）」を収めた。「信濃国松代真田家文書（その1）」は『史料館所蔵史料目録』第28集として、昭和53年(1978)3月に刊行。その後、目録（その2）から目録（その6）まで刊行してきたが、まだ全部の目録刊行を完了していない。今後も整理を終えたものから、順次目録を刊行する予定である。
- 2 目録の編成にあたっては文書群の階層構造に留意し、ISAD(G)（国際標準：記録史料記述の一般原則）の考え方も参考にしつつ、大・中・小項目で編成する方式をとった。
- 3 袋・こより紐などによる一括史料は、当館寄贈後の仮整理時に一括されたと推定されるものも含め、すべて現状のまま一括掲載し、枝番号付与で物理的階層を示すこととした。一括内の個々の史料の配列順も原則として現状通りとし、並び替えは行わなかった。一括史料に表題がない場合は、仮に全体表題を付与して（ ）内に記した。
- 4 史料1点ごとの記述は、①表題・作成等（表題、作成→宛所、備考）、②年代（作成年月日）、③形態・数量、④整理番号、の順に記載した。

表題は、本目録の大半を占める書付型史料の場合、原則として差出人+文書名のかたちで付与した。原文書に柱書がある場合は表題の後に[]で記した。表題や柱書だけで不十分な場合は、さらに（ ）で内容を摘記した。

形態は、本目録の大半を占める書付型史料の場合、竪紙、折紙、竪切紙、横切紙、竪継紙、横切継紙、小切紙、などと表記することで、料紙の使用法の違いを示した。また絵図など大きいものは寸法を表記した。
- 5 本目録では史料が保管されてきた秩序に応じて史料番号を付与したため、目録上で史料が番号順に並んでいない。そのため番号による検索には不便をきたすので、史料の引用に際しては番号のほか掲載頁もできるならば併記することをお願いしたい。
- 6 本目録はアーカイブズ研究系安藤正人が担当し、清水邦俊、種村威史、高橋伸拓の3氏の協力を得た。

総目次

口絵

凡例

総目次

本文細目次〔文書群の構造〕 1

信濃国松代真田家文書目録（その7）解題 3

 文書群記号

 文書群名

 年 代

 数 量

 入手の経路

 真田家と松代藩の歴史

 文書群の構造と目録編成

 文書の主な内容と宛先

目録本文 9

本文細目次〔文書群の構造〕

真田家	9
屋敷・地所	9
藩政	10
維新騒擾	10
松代藩	40
交通	
松代庁	42
交通	
藩知事	42
政府	
家中	42
御用、扶持、屋敷・地所、勘定、吟味、災害、普請、交通、その他	
寺社方	54
訴訟・争論	
町方	54
人別、屋敷・地所、勘定、献上、吟味・訴願、交通	
村方	66
村役人、支配、献上、御用、分村、褒賞、人別、社寺、救恤、年貢、勘定、屋敷・地所、欠落、吟味、訴願、訴訟・争論、普請、交通、馬市、米穀、作物、酒造、水車、煙硝、鉄砲、その他	
財政	148
家中	148
勘定	

